所報

島根県教育庁
隠岐教育事務所

隠岐の島町港町塩口24
電話２－９７７２

海士町の教育活動

海士町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を、派遣指導主事と派遣社会教育主事が紹介します。

【プログラミング教育研修】

二〇二〇年度からすべての小学校においてプログラミング教育が必修化されます。

海士町では、八月七日（火）に、安来市立島田小学校の岩田健志教頭先生を講師に迎え、小・中学校の先生方を対象に「プログラミング教育研修」を開催しました。

研修の前半では、プログラミング教育必修化の背景やそのねらいについての講義がありました。その中にあった「プログラミング教育で育む資質・能力」は次の通りです。

□身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気付くこと（知識及び技能）

□「プログラミング的思考」を育成すること（思考力・判断力・表現力等）

□コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること（学びに向かう力、人間性等）

後半の演習では、簡単にプログラミングができるビジュアル型プログラミング言語の教材などを実際に操作することで、先生方にはプログラミングの面白さを実感し、授業のイメージをつかんでもらうことができました。

今後は、プログラミング教育の完全実施に向けて、各小学校では、模擬授業が行われたり、ＩＣＴ環境やプログラミング教材などが整備されたりします。

文科省でも「小学校プログラミング教育の手引き（第一版）」を作成しており、プログラミング教育についての基本的な考え方やプログラミング的思考について分かりやすく解説しています。また、「未来の学びコンソーシアム」Ｗｅｂサイトには実践事例も紹介されています。

小学校プログラミング教育の円滑な完全実施に向けた支援を今から計画的に進めていきたいと思います。

（文責　濱）

【地域の魅力を引き出し合う親子島留学】

海士町では、昨年度から「海士の教育の魅力を感じてもらう」「海士を好きになってもらって交流人口を増やしていく」ことをねらい、一年間の親子島留学事業を行っています。現在三組の親子が海士で暮らしており、自然体験や文化的活動に積極的に挑戦し、町民の方との交流を深めています。

この夏、親子島留学申し込みに先立ち、「島育体験プログラム」を行いました。今年度は、島留学の親子を受け入れることになる地域が主体となり、地域の魅力を感じてもらえるような活動を企画していただきました。

参加した六組の親子を受け入れた地域は崎区と御波区でした。崎区では、地域の方が前日に釣ってきたシロイカや魚などを捌く体験をしました。大きなシロイカや高級な根魚に驚いていましたが、地域の方の丁寧なご指導の下、ミッションをクリアすることができました。

御波区では、素潜り体験で獲ったサザエ、アワビなどを使って昼ご飯を作りました。ウニを割って食べる方法などを教えてもらったりして海士の食文化を楽しみました。

活動後、参加した保護者の方からは「子供も親も海士の海に夢中になることができ、楽しかった」「海・自然に恵まれていることはもちろん、それらを生かして生活を営もうとする人たち、私たちにかかわってくださる人たちの優しさ・温かさが伝わった」と感想をいただきました。

親子島留学は海士町教育魅力化事業の一環です。島留学という一つの刺激が海士町の財となるひと・自然・文化の魅力を引き出し合い、教育による町づくりの実現を目指しています。

（文責　山下）

複式学級の指導から学ぶ

～複式教育推進指定校事業～

隠岐管内小学校十一校のうち、複式学級を有する学校は四校あります。児童数の減少に伴い、次年度複式学級になることを見越して準備を始めた学校もあります。

本県「各教科の指導の重点」において、学年別指導の留意点として次の三点をあげています。

□直接指導と間接指導が相互に効果的な指導となるように、「わたり」と「ずらし」を計画的に行う。

□主体的・協働的に学ぶ力の育成を図るために、「ガイド学習」の充実を図る。

□主体的な学び合いの助けになるように、教室環境やワークシート等を工夫する。

間接指導は短所のように思われがちですが、児童の主体的な学びの場面として生かせば、長所となります。複式学級のよさを生かした指導方法は、単式学級の先生方にとっても参考になります。

本県では、平成二十七年度より、複式教育の充実を図るために、県内で小学校三校を推進指定校とし、効果的な学年別指導のあり方を研究しています。隠岐管内では、隠岐の島町立北小学校が指定校として研究を進めています。

北小学校では、平成三十年十一月二十九日（木）に授業公開をされます。詳しい内容は、県教委が発出する要項にあるのでご確認ください。多くの参加をお願いいたします。

（文責　森）